

履修番号18

- 問題 1 交通規則を守って運転していれば、車に働く自然の力まで考える必要はない。
- 問題 2 狭い坂道での行き違いができないときは、上り坂での発進がむずかしいので、下りの車が道をゆずる。
- 問題 3 二輪車の正しい乗車姿勢は、ステップに土踏まずを乗せ、足の裏が水平になるようにし、つま先が前を向き、タンクを両ひざでしめるのがよい。
- 問題 4 走行中の車は、ギヤをニュートラルに入れても走り続けようとする慣性がある。
- 問題 5 長い下り坂では、フットブレーキをひんばんに使いすぎるとブレーキが効かなくなることがあるので低速ギヤを用い、エンジンプレーキを活用するのがよい。
- 問題 6 停止距離とは、ブレーキが実際に効き始めてから車が停止するまでの距離をいう。
- 問題 7 二輪車を選ぶときは、8の字型に押して歩くことが完全にできるかどうか、平地でサイドスタンドを立てることが楽にできるかどうか確かめることが大切である。
- 問題 8 路面が雨にぬれ、タイヤがすり減っている場合の停止距離は、乾燥した路面でタイヤの状態がよい場合に比べて2倍程度にのびることがある。
- 問題 9 運転者が疲れているときは、危険を認知し判断するのに時間がかかるので、空走距離は長くなる。
- 問題 10 二輪車でカーブを通行するときは、車体を傾けると自然に曲がれるので、手前の直線部分であらかじめ速度を落とさなくてもよい。
- 問題 11 制動距離や遠心力などは、いずれも速度に比例して大きくなり、速度が2倍になれば制動距離やカーブで車の横滑りや転倒させようとする力も2倍になる。
- 問題 12 二輪車で二人乗りをするときは、重心が後方へ移動して前輪が浮き気味になり、操作が不安定になるおそれがあるので、より慎重な運転と同乗者への配慮が必要である。
- 問題 13 最も短い制動距離で車を安定させて止めるときは、力いっぱいブレーキペダルを踏むとよい。
- 問題 14 自動車に荷物を積んだとき、その重心が高いほど走行中の安定性がよい。
- 問題 15 自動二輪車を運転中にブレーキをかけるときは、エンジンプレーキをかけながら前後輪のタイヤのブレーキを同時に使用するのがよい。
- 問題 16 走行中の車に働く遠心力は、速度が速く、またカーブの半径が小さくなるほど大きくなる。
- 問題 17 衝撃力は、速度と重量に応じて大きくなり、衝撃の作用が短時間に行われるほどその力は大きくなる。
- 問題 18 上り坂で発進するときは、クラッチ操作でしようすると失敗して後退することがあるので、四輪車の場合はハンドブレーキを利用して発進するとよい。
- 問題 19 エンジンプレーキは、低速ギアになるほど制動力は小さくなる。
- 問題 20 二輪車の乗車姿勢は手首を下げて、ハンドルを手前に引くような気持ちで軽くグリップを持ち、肩の力を抜き、肘をわずかに曲げ、背筋を伸ばし、視線を先に向けるのがよい。
- 問題 21 ハイドロプレーニング現象とは、長い下り坂でフットブレーキをひんばんに使いすぎたときに、急にブレーキが効かなくなるこという。
- 問題 22 運転者が危険を感じてからブレーキを踏み、ブレーキが実際に効き始めるまでに走る距離を空走距離という。
- 問題 23 長い下り坂では、燃料を節約するため、エンジンを切って、フットブレーキを使用して下るのがよい。
- 問題 24 時速60キロメートルでコンクリートの壁に激突した場合は、約14メートルの高さ(ビルの5階程度)から落ちた場合と同じ程度の衝撃力を受ける。
- 問題 25 狭い坂道での行き違いができないときは、下り坂の車は加速がつくので、上りの車が道をゆずる。
- 問題 26 走行中にクラッチを切っても車がすぐに停止しないのは、慣性が働いているためである。
- 問題 27 自動車の速度と燃料消費量とは密接な関係があり、速度が速すぎても遅すぎても燃料消費量は多くなる。
- 問題 28 片側が転落のおそれがあるがけになっている道路で、安全な行き違いができないときは、山側の車が一時停止をして道をゆずるのがよい。
- 問題 29 上り坂でオートマチック車を駐車するときは、チェンジレバーをL(ロー)に入れておくのがよい。
- 問題 30 二輪車は、体で安定を保ちながら走り停止すれば安定を失うという構造上の特性をもっており、四輪車とは違った運転技術が必要である。
- 問題 31 長い下り坂をオートマチック車で通行するときは、ギアの変速が自動的に行われ、エンジンプレーキが活用できないので、フットブレーキをひんばんに活用するのがよい。
- 問題 32 二輪車でカーブを通行するときは、カーブの途中ではクラッチを切って常に車輪にエンジンの力をかけておき速度はスロットルで加減し、カーブの後半で前方の安全を確かめてからやや加速するのがよい。
- 問題 33 遠心力の大きさは、カーブの半径が小さいほど大きくなり、速度の2乗に比例して大きくなる。

- 問題 34 二輪車で走行中に急ブレーキをかけると、車輪の回転が止まり横滑りを起こす原因となるので、ブレーキをかけるときは数回に分けて使うのがよい。
- 問題 35 エンジンブレーキは、スロットルのもとし又は、シフトダウン(低速ギヤに入れること)がある。
- 問題 36 二輪車でカーブを曲がるときは、車体を傾けると横滑りをしやすいので車体を傾かせないようにしてハンドルを切るとよい。
- 問題 37 自動車は、タイヤと路面との摩擦で停止や発進をする。
- 問題 38 二輪車でエンジンブレーキをかけるとき、ギアをいきなり高速からローにいれるとエンジンをいためたり、転倒したりするおそれがあるので、順序よくシフトダウンしなければならない。
- 問題 39 車は濡れたアスファルト路面を走るときなどは、摩擦抵抗は小さくなり、制動距離が長くなる。
- 問題 40 速度が2倍になると他の条件が同じであれば、空走距離は2倍になるが制動距離は4倍になる。
- 問題 41 二輪車を選ぶときは、またがってみて、片足が地面につき車体が支えられるかどうか、8の字型に押して歩くことが完全にできるかどうかを確かめておくことが大切である。
- 問題 42 二輪車のブレーキのかけ方には、ブレーキレバーを使う前輪ブレーキ、ブレーキペダルまたはブレーキレバーを使う後輪ブレーキ、エンジンブレーキの3つがある。
- 問題 43 大型自動二輪車や普通自動二輪車の二人乗りには一人乗りのときにはない運転特性があるので、二人乗りできる場合でも一人乗りでの運転に習熟してから行う方がよい。
- 問題 44 アンチロックブレーキシステム(ABS)を備えた自動車で急ブレーキをかける場合は、システムを作動させるために、まずできるだけ軽く踏み、それから必要な強さまで徐々に踏み込まなければならない。
- 問題 45 速度が3倍になると、衝突したときに受ける運動エネルギーは約3倍になる。
- 問題 46 下り坂は、加速がつき停止距離が長くなるので、車間距離は多くとるのがよい。
- 問題 47 えんしんりょくのおおきさは、カーブの半径が小さいほど大きくなり、速度に比例して大きくなる。
- 問題 48 衝突する直前の速度が半分に落ちていれば、衝突時の運動エネルギーは2分の1に減っていることになる。
- 問題 49 自動車の排出ガス中には、一酸化炭素、窒素酸化物など人体に有毒な物質が含まれているので、光化学スモッグが発生したときや発生する恐れがあるときは、自動車の使用をひかえたほうがよい。
- 問題 50 坂道では、上りの車が優先であるから、近くに待避所があるときでも、下りの車を優先させる必要はない。

履修番号18 解答

もんだい 問題 1	×		もんだい 問題 26	○	
もんだい 問題 2	○		もんだい 問題 27	○	
もんだい 問題 3	○		もんだい 問題 28	×	
もんだい 問題 4	○		もんだい 問題 29	×	
もんだい 問題 5	○		もんだい 問題 30	○	
もんだい 問題 6	×		もんだい 問題 31	×	
もんだい 問題 7	×		もんだい 問題 32	×	
もんだい 問題 8	○		もんだい 問題 33	○	
もんだい 問題 9	○		もんだい 問題 34	○	
もんだい 問題 10	×		もんだい 問題 35	○	
もんだい 問題 11	×		もんだい 問題 36	×	
もんだい 問題 12	○		もんだい 問題 37	○	
もんだい 問題 13	×		もんだい 問題 38	○	
もんだい 問題 14	×		もんだい 問題 39	○	
もんだい 問題 15	○		もんだい 問題 40	○	
もんだい 問題 16	○		もんだい 問題 41	×	
もんだい 問題 17	○		もんだい 問題 42	○	
もんだい 問題 18	○		もんだい 問題 43	○	
もんだい 問題 19	×		もんだい 問題 44	×	
もんだい 問題 20	×		もんだい 問題 45	×	
もんだい 問題 21	×		もんだい 問題 46	○	
もんだい 問題 22	○		もんだい 問題 47	×	
もんだい 問題 23	×		もんだい 問題 48	×	
もんだい 問題 24	○		もんだい 問題 49	○	
もんだい 問題 25	×		もんだい 問題 50	×	

☆見直しのポイント

不正解だった問題やわからなかった問題は、学科教本にマークし、後で暗記できる状態(明日になると忘れてしまいますので・・・)にしておきましょう。→問題で覚えると、文章などが変わるとわからなくなります。